



# 車両火災に注意しましょう！



車両火災は毎年3,500件程度発生し、全火災原因の2割を占めています。下記図のように排気管周りの火災発生が多いほか、ボンネット内や車室内での電気配線周りからの出火も多くなっています。またタバコの不始末による火災も見受けられます。

主な出火原因	排気管	交通機関内配線	電気機器	放火 (放火の疑いを含む)	たばこ	その他 (不明・調査中を含む)	車両火災件数					
	531件 (15.1%)	316件 (9.0%)	254件 (7.3%)	235件 (6.7%)	152件 (4.3%)	2,024件 (57.6%)						
主な経過 又は発火源	着火物の漏えい	144	電線が短絡する	107	電線が短絡する	67	ライター	89	投げ捨て	69	-	3,512件
	高温物の接触	108	スパーク	53	スパーク	53	その他の たばこマッチ	17	火源の接触・ 落下	55		
	可燃物の接触	103	スパークに よる引火	34	高温物の接触	19	火のついた紙	7	消したはずの ものが再燃する	9		
	その他	176	その他	122	その他	115	その他	122	その他	19		

## 車両火災を防ぐポイント

### ①車内に火災の原因となるものを放置しない。

ライター・オイル、スプレー缶を車内に放置すると高温下で破裂、発火する恐れがあります。またモバイルバッテリー、電動工具、電子たばこ等のリチウムイオン蓄電池を含む製品も車内に放置しないようにしましょう。

### ②喫煙時は灰皿を使用し、喫煙後は確実に火を消す。



### ③電気による火災を防ぐために不適切な改造を行わない。

### ④車両は定期点検、日常点検を確実に実施する。

エンジンオイル、冷却水は定期的に点検し補充しましょう。定期的なメンテナンスを実施すれば、車両の安全性を維持し、火災のリスクを大幅に減少させます。

※点検・整備の際、布切れなどの燃えやすいものをエンジンルームに置き忘れないようにしましょう。日常点検整備や洗車後にはエンジンルーム内をしっかりと確認し、不要なものが残っていないことを確認することが重要です。

## 車両火災にあったら・遭遇したら

車両火災が発生したら、ハザードランプを点滅させて後続車や周囲の車両に異常を知らせましょう。可能な範囲で安全な場所に車を停車させます。

安全を確保した後、119番通報しましょう。

可能であれば、消火器を使用し初期消火を行ってください。ただし、安全が最優先ですので、火の勢いが強い場合やガソリントank周辺での火災の場合は無理に消火を試みず、速やかに避難してください。